



今庄宿プロジェクト

★町並みを守る取組み

今庄宿の最大の魅力の一つは、江戸時代から本格的に整備が行われ、^{そでうだつ のぼり}袖卯建や登り梁などに代表される伝統的民家によって形づくられた町並み景観が今なお色濃く残っているところです。また、伝統的民家は、建築だけでなく、当時の暮らしや環境、景観、歴史・文化など多方面からも価値の高い資産であります。

今庄宿プロジェクト協議会では、伝統的民家の減少に歯止めをかけ、固有の町並み景観を将来に継承していく必要があるため、伝統的民家を保存し、町並みを守る取組みとして「ふくい伝統的民家」の指定促進を行っています。

※「ふくい伝統的民家」認定制度は、所有者の申請に基づき県が認定を行うもので、伝統的民家に誇りをもって住み続けていただき、後世に継承していただくことを目的としています。

「ふくい伝統的民家」の基準

〈共通事項〉

- ① 在来工法(伝統的技術に配慮したもの)による木造2階建て(小屋裏3階建てを含む)
- ② 外観は、終戦前(1945年以前)の地域の伝統的民家の意匠を基調としたものであること

■典型的な民家(基準を満たす民家)

－ 典型的な農家型の例 －



- 〈屋根〉切妻屋根・瓦葺き(嶺北は越前瓦葺き)
※主屋根が入母屋のものは認定対象外
- 〈妻壁〉東(柱)と貫(梁)の格子組および漆喰塗り様
小屋梁から下は漆喰塗り様または木製板張り
- 〈下屋〉妻壁全面に瓦葺きの下屋
- 〈玄関〉地域の伝統的意匠を基調としたもの

－ 典型的な町家型の例 －



- 〈屋根〉切妻屋根・瓦葺き(嶺北は越前瓦葺き)
- 〈外壁、軒裏〉地域の伝統的意匠を基調としたもの
- 通庇を設けたもの
- 〈開口部〉格子戸等町家の伝統的意匠を基調としたもの
- 軒高、軒出、庇の高さ、壁面線を街並みに揃えたもの

■その他の地域固有の形態を持つ民家(個別に承認)

－ 妻卯建の民家 －



－ 茅葺の民家 －



－ かぐら建ての町家 －



町では、ふくいの伝統的民家普及促進事業補助金制度を設け、「ふくいの伝統的民家」の認定を受けている建物に対し、経費の助成を行っています。

①〔新築等〕

外観仕上げ工事に要する費用の1/2以内(限度額160万円)

②〔改修〕

外装または構造体の改修工事に要する費用の1/2以内(限度額300万円)

③〔土蔵、門、塀等の改修〕

地域の景観と調和するように改修する工事に要する費用の1/2以内(限度額300万円)ただし、伝統的民家の改修と付随する土蔵、門、塀等の改修に対する補助金を併せて300万円を限度とする。

④〔空き家〕

内部および外観または構造体の改修工事に要する費用の4/5以内(限度額600万円)

“今庄宿”豆知識 その3

江戸時代中期から今庄宿は大いに賑わい、寛政年間(1789～1801年)に書かれた旅日記には「今庄に着くと、ここは北国の街道ということで、茶店には田楽(豆腐)、煮物、そばなどが売られ、道には呼びこみの女性らが騒々しく、『休まんせ、泊まんせ』などと、少し都なまりも混ざった言葉のおかしさ…」などと、その情景を表しています。

江戸時代前期の天和三年(1683年)頃に240戸であった今庄宿の戸数は江戸時代末期の天保年間(1830～1844年)には、戸数290戸を数えました。

問合せ 観光まちづくり課 ☎ 47-8013

きとつけ今庄 今庄宿プロジェクト

検索